国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料１

令和５年２月１日

自主学修プログラム『injyanai？～いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ』の発行と「フルーツハーブティー」について

本学３年生４名、２年生１名が、相双地区での人口減少という課題を解決するため、「自主学修プログラム」として活動する川内村に関わる村民･関係者へインタビューを実施し、それらをまとめた小冊子『injyanai？～いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ』を発行しました。取り組んだ学生は全員、１年時にコロナ禍の中フィールドワークをくり返し地域課題を学ぶ授業「むらの大学」を受講し、今年度も引き続き地域課題解決に取り組む活動をしました。

同時に、この小冊子でも掲載されています、川内村の休耕地でハーブを栽培し、「フルーツハーブティー」として商品化し販売する活動にも取り組んできました。

授業「むらの大学」は、１年生が南相馬市・川内村・大熊町の３地域に分かれ、フィールドワークをくり返して地域課題について学ぶ授業です。今回発表する学生５名は１年時に、川内村の「震災からの復興」や「地域づくり」について学びました。

２・３年生になった現在、川内村における「人口の減少」という地域課題を解決するため、川内村の地域づくりに貢献する方々にインタビュー調査を実施。インタビューをまとめたものを、小冊子『injyanai？～いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ』として同時に小冊子にも掲載されている川内村の休耕地で栽培したハーブを「フルーツハーブティー」として商品化する活動にも取り組みました。

これらは、川内村での「いなか暮らしの魅力」をより具体的に発信し、同世代の若者へ相双地区での「地域と関わる新しい生き方の提案をする」取り組みです。

小冊子の名称：『injyanai？いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ』
ハーブ商品：Tea＆Things（ブランド名）、フルーツハーブティー（商品名）

作 成 者：対馬 楓菜（つしま ふうな） 食農学類３年
柴田 史音（しばた しおん） 共生システム理工学類３年
沼田 健志（ぬまた けんし） 行政政策学類３年
石田 未優（いしだ みう） 食農学類２年

デザイン：大類日和（おおるい ひより）氏・株式会社火種（田村市船引町）

国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料１

協力者：大島草太(おおしま そうた)氏･福島大学｢むらの大学｣OB 株式会社 Kokage･代表取締役

担当教員：狩野 剛（教育推進機構 特任助教）

発行部数：2000 部

配 布 先：川内村内の各公共機関や｢コラッセふくしま｣等を予定

※希望者は下記「ふくしま未来学事務局」までご連絡ください。

★本小冊子は（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」の成果物です。記事化の際はできる限り、同事業名をご紹介頂ければ幸いです。

★その他、ご不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

（お問い合わせ先）
福島大学ふくしま未来学事務局
電話：024-504-2850 / Fax：024-504-2849
メール： miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp

「injyanai？いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ」の発行と「フルーツハーブティー」について

福島大学自主学修プログラム　川内村に関わり隊

報告：食農学類3年　対馬楓菜

本日の流れ

1. 川内村に関わり隊とは
2. 2022年度の主な活動内容
   - インタビュー冊子について
   - Tea ＆ Thingsの活動について
3. 来年度の活動について

川内村に関わり隊とは

➢2020年度の
「むらの大学　川内村班」で活動した
学生中心に結成。

→コロナ禍で例年のような授業内での
フィールドワークができなかった

➢川内村に関わる活動を
継続的に行うため「川内村に関わり隊」
として活動開始。

➢今年度は3年生4名、2年生1名の
計5名が中心となって活動に取り組んだ。

本日の流れ

1. 川内村に関わり隊とは
2. 2022年度の主な活動内容
   - ・インタビュー冊子について
   - ・Tea ＆ Thingsの活動について
3. 来年度の活動について

2022年度の主な活動内容

インタビュー小冊子
「injyanai?」
の発行

Tea & Thingsの活動

インタビュー小冊子「injyanai?いなかでの暮らし、関わりを始めたい人へ」について

◎この冊子の概要

これまでの川内村の活動を通して、

川内村に関わる**頻度・手段が異なる**5名にインタビューを実施。

立場・年齢・性別が異なるそれぞれの活動や今抱える想いをまとめた。

◎この冊子に込めた思い

現状

- 多様なライフスタイルが混在

誰に

- 進路に迷う学生
- 生き方に迷う人々

どうやって

- 地域との関わりを生活に取り入れている人達の“今”を掲載

“地域と関わりのある生活”を知るきっかけ

「こんな生き方も“いんじゃない？”」と後押しできるような1冊

◎発行までの経緯

2022年　4月：企画開始　5-9月：冊子のコンセプト設計
10月：取材、撮影　11-1月:執筆、推敲、校正
1月29日: 川内村現地報告会にて発表

・福島大学
・ 川内村役場及び村内各施設
・ふくしま12市町村移住支援センター
・NPO法人ふるさと回帰支援センター　等に配布予定

◎役割分担

- 学生5名：インタビューと執筆を担当
- デザイン：大類日和さん（株式会社火種）
- 協力者：大島草太さん（むらの大学OB・株式会社Kokage代表取締役）

◎私たちのこだわり

それぞれの記事で
各項目の「見出し」が違う！
→担当者が聞いた内容を踏まえて決定！

井出寿一

main job / 理事（一般社団法人かわうちラボ）
side job / 川内村長

川内村生まれ、川内村育ち。高校を卒業後、川内村役場に就職。東日本大震災時には総務課長を務めていた。川内村の復興対策課長を経て、環境省福島地方環境事務所で除染と廃棄物処理を経験。令和元年7月から、かわうちラボの事務理事兼事務局長を務める。

両親の願いと進路。

生まれ育った川内村を離れ大学生になることを夢見ていた。しかし、一人っ子だったことに加え、「一度村外に行ってしまったらもう戻ってこないのではないか。」と、懸念していた両親の反対で大学進学をあえなく断念した。そのため高校を卒業したら就職しなければならなくなる。両親の意向もあり家業の農家をしながらも目指したのは村役場の職員だった。「村外に出たい」という想いより「川内村を発展させたい」という村への愛が勝り、公務員試験に合格して村役場に勤めることとなった。

やる気溢れる役場職員時代。

公務員となったものの具体的な夢を持っていたわけではなかった。だが、人に仕事の面では負けたくないという一心だった。
「俺ならできる！俺に任せろ！」と自分の仕事に常に誇りを持ち、とにかくつっ走った。そして、人と人の付き合いやコミュニケーションを大切にすることで、職場や地域の人達からの信望を得てきた。こうして係長から課長へとスピード出世で昇進していった。

全てが失われ得たあの日。

行政区の役員をして40年が過ぎ、平穏な日常を送っていた。
しかし、【2011年3月11日】東日本大震災は何の前触れもなく突然起こった。当時総務課長として災害対応に取り組んでいたが、日が経つにつれ状況は暗転していき、様々な情報が錯綜している中、事態が深刻だと判断した川内村は、【2011年3月16日】全村避難を決定した。
「川内村で仕事ができなくなる」「川内村から住民がいなくなってしまう」「いつ川内村に戻ってこれるかわからない」といった考えが頭を巡り涙があふれ出た。
死を覚悟するも「体は小さいが気力と体力は誰にも負けない。」と自分に言い聞かせ、辛い状況の中、村長を補佐し続けた。

10

◎私たちのこだわり

その人の
「日常を切り抜いた写真」
で親しみやすく！
→実際に活動している様子を
イメージしやすい！

自分にできること。

村役場を定年退職した後、行政経験者として環境省に3年、福島発電株式会社に3年、そして2018年に村が立ち上げた「かわうちラボ」に3年務め令和3年度末でかわうちラボの専務理事兼事務局長は辞任した。

だが、まだできることはある。

そう思い、新たな高齢者の生きがいと所得拡大のため、「ゴールド人材センター」を立ち上げ、現在もいきいきと輝けることをモットーに週3日は、かわうちラボに足を運んでいる。

2022年で69歳となり、前期高齢者もあと1年なので、そろそろかわうちラボからは身を引くつもりだが、それでも地域のため、人のためにできることはやっていこうと考えている。

全ては村への愛。

今は「復興」というより「村づくり」に移行している。「川内村を発展させたい」という想いを実現させる為には村の活性化に繋がる交流人口の拡大事業が根幹となる。役人から村のおじいちゃんに立場が変わったとしても、村外から来る人達を迎えるおもてなしの心は変わらない。それはひとえに川内村への愛ゆえだ。フリーでほぼボランティアの状態でも仕事を続けているのは決してお金のためではない。村民には川内村に住んでて良かったと思ってもらいたい。来村してくれた人には川内村を好きになってもらいたい。村への貢献と還元。「なんとか力になりたい」という想い、ただそれだけだ。

◎私たちのこだわり

「いい感じのヒトコト」
がおもしろい！
→個性あふれる野望が書いてあります！

自分にできること。

村役場を定年退職した後、行政経験者として環境省に3年、福島発電株式会社に3年、そして2018年に村が立ち上げた「かわうちラボ」に3年務め令和3年度末でかわうちラボの専務理事兼事務局長は辞任した。

だが、まだできることはある。

そう思い、新たな高齢者の生きがいと所得拡大のため、「ゴールド人材センター」を立ち上げ、現在もいきいきと輝けることをモットーに週3日は、かわうちラボに足を運んでいる。

2022年で69歳となり、前期高齢者もあと1年なので、そろそろかわうちラボからは身を引くつもりだが、それでも地域のため、人のためできることはやっていこうと考えている。

全ては村への愛。

今は「復興」というより「村づくり」に移行している。「川内村を発展させたい」という想いを実現させる為には村の活性化に繋がる交流人口の拡大事業が根幹となる。役人から村のおじいちゃんに立場が変わったとしても、村外から来る人達を迎えるおもてなしの心は変わらない。それはひとえに川内村への愛ゆえだ。フリーでほぼボランティアの状態でも仕事を続けているのは決してお金のためではない。村民には川内村に住んでて良かったと思ってもらいたい。来村してくれた人には川内村を好きになってもらいたい。村への貢献と還元。「なんとか力になりたい」という想い。ただそれだけだ。

いい感じのヒトコト

「人や地域から好かれる【いいお爺さん！】であることが夢かな～と思います。」とおっしゃっていました。（かわいい。）

Tea & Thingsでの活動について

◎Tea & Thingsとは

・・・株式会社Kokageと地域の若者の共同事業

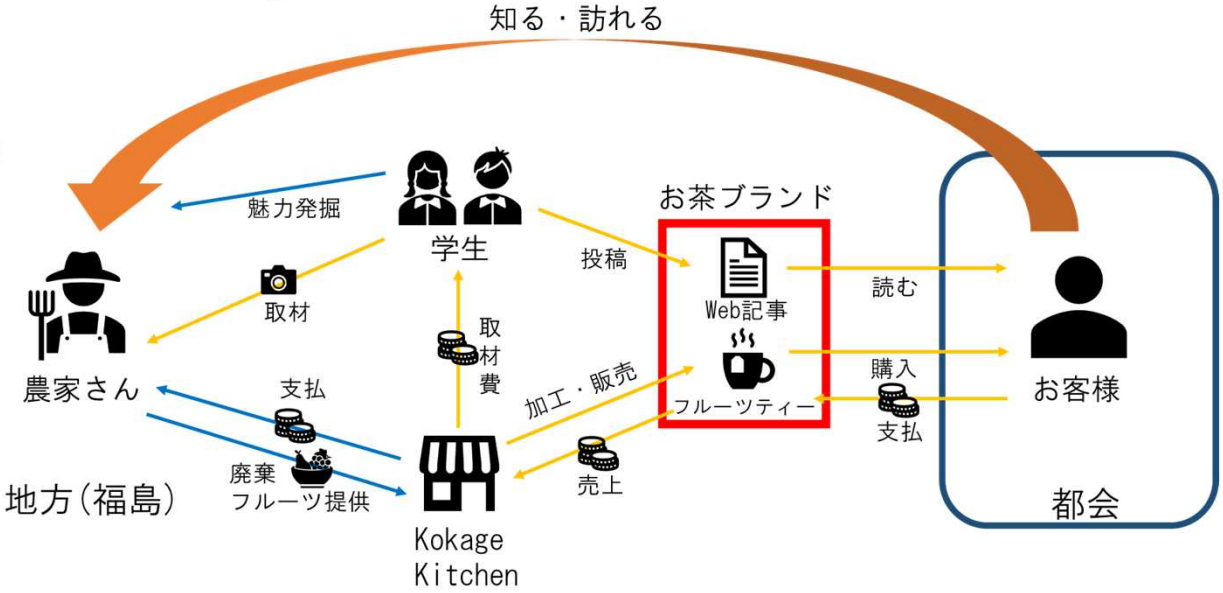
地域メディア型お茶ブランド「Tea ＆ Things」

【内容】

規格外フルーツ×県内産ハーブの

フルーツハーブティー

→規格外の果物を地域の魅力に！



◎Tea & Thingsとは

・・・地域メディア型お茶ブランド「Tea and Things」

【学生の役割】

✓ ハーブ栽培の手伝い

✓ 農家さんからの規格外果物の回収

✓ 試飲・試作

✓ 販売活動

【ねらい】

若者が継続的に地域に関われる仕組みづくり

消費者が作り手の思いに触れる機会づくり

◎これまでの流れ

2021年10月　代表増尾から大島さんに「地域づくり」につながる活動の提案

2022年 3月　企画スタート

4月　ハーブ栽培スタート

5月　聖光学院の高校生参加

11月　**新宿御苑にて初リリース**

コラッセふくしまにて**福島県内初リリース**

12月　オンラインストアでの販売も開始

県内の飲食店、各イベントでの販売を随時実施

◎ハーブ栽培の様子

【栽培地】

川内村内の休耕地

・井出寿一さん

・志賀風夏さん

それぞれから借用

田村市都路地区

・グリーンパーク都路内

◎販売活動

2022年

・11月5日～6日「グリーンチャレンジデー」出店（新宿御苑）

・11月19日「あぶくまフェア2022」出店（コラッセふくしま）

2023年

・1月5日～9日「旅するふくしま物産展」出店（うすい百貨店）

本日の流れ

1. 川内村に関わり隊とは
2. 2022年度の主な活動内容
   - インタビュー冊子について
   - Tea ＆ Thingsの活動について
3. 来年度の活動について

来年度の活動について

➢Tea ＆ Thingsの活動展開

県内素材を活用した新たなフレーバーの開発

ハーブ栽培や収穫イベントの実施

各イベントでの販売試飲による販促

➢地域課題解決に向けた新たな取り組み　　等

ご清聴ありがとうございました